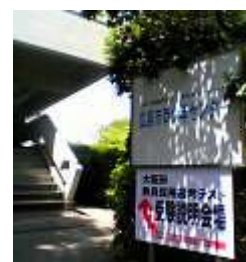


自己アピールとお笑いが重要!？」

気持ちよく晴れ渡った4月25日の日曜日。この日は広島市青少年センターにおいて、大阪府教員採用試験の受験説明会が行われました。時間帯は13～15時で、約600人収容できるホールに、300人くらい(?)の参加者がいたと思われます。だいたい7割くらいがスーツで、私服は少なかったです。



会場入口

まず司会の第一声、やっぱり関西弁(当たり前ですけど)。

内容としては...

- なぜ説明会をするようになったか。これまでは百数十名程度に採用数を抑えていたが、平成14年度からは子どもの数が下げ止まりとなり、採用数を増やすようにした。さらに団塊の世代(昭和40年代後半に採用)の方が大量に退職されるので、大幅な増加へ(約二千名)。そこで多くの人に大阪の教育を知ってもらうため、アピールをしていこうということになった。
- 現在、大阪は教育上、様々な課題を抱えている。これは全国的にも同じことが言えるが、大阪は特にそれらを集約させたような状態。多くの“熱中先生”に、それらの課題を解決してもらいたい。たくさんの人材に来てもらい、大阪の教育の底上げを図っていく。そのために、多くの人を受験しやすいよう、教員採用試験の制度改善を行っている。
- 大阪は40代以上が80%を超え、90%に迫ろうとしている。これは大阪の教育を変える絶好のチャンス。特に小学校は今後、教員の半数が入れ替わる。ゆえに、これからの人にはやりがいがあるし、ぜひ大阪の教育をリードしていただきたい。
- 大阪の採用試験は人物本位。子どもにとってよい人材を確保するため、何度も面接を行う。例えば体育の実技テストでは、跳び箱が跳べるかどうかよりも、いかに体育や音楽などの楽しさを伝えていけるかどうかを見る。
- 地域に密着した学校を目指している。現在、大阪府では、(公立の)小学校から中学校への進学率は93%。中学から高校への進学は、公立7:私立3。公立を重視されている家庭が多い。
- 現在、小学校教員の平均年齢が47歳と高齢化が進んでいる。そのなかにいざ若い人が採用されて入っても、年齢差もあり、相談しにくいなどの状況が生まれやすい。大阪ではそのことに配慮し、採用後は、新採の人を同じ学校へ複数名で配置するようにしている。

さて、この説明会のメインは、大阪で採用されて間もない3名の先生(それぞれ小・中・高)によるパネルディスカッションであったと思います。しかも底抜けに明るい先生たちばかりで、大阪という土地柄からなのか、「お笑い」についてはかなり意識している様子。会場が爆笑するほど、楽しく、和やかなムードの中で進められていきました。ちなみに3名のうちお一人は、広島県出身。福山の短大から広島市内の女子大へ編入。昨年、広島県で開催された説明会に参加して、大阪を受験。地元広島の試験は2次で敗退も、大阪は見事一発で合格。自分は広島弁であったが、関西に来ればすぐに慣れて全く問題なかったとのことでした。

採用試験にあたっては、この先生方を見るだけでも分かるほど、自己アピールが最も大事な要素といえそうです。(1次から面接あり。2次は個人と集団面接。)



募集パンフレット

全体の印象としては、大阪は是が非でも多くの人材を確保したいと考えているようで、特に採用試験の工夫には力を入れているようでした。そして、たとえ新米の若い先生であっても、あまり束縛されることなく力を存分に発揮していける、そんな雰囲気を感じさせてくれる内容でした。

広島と大阪。教育改革についての力の入れどころは同じように思えるのですが、それぞれに違った味があるというか、特徴が出ているようです。少なくとも、お互いが教育改革の先頭に立っていると思っ

ていることに違いはなさそうです。教師を目指す者として、私たちが待っている子どもは全国津々浦々。行けるところにはどこにも行ってやるぜ(先の広島出身の先生談)という気持ちは大切でしょうね。大阪に行くなら、授業では必ず「笑い」と「オチ」が求められる(?)そうなので、その心づもりは必要かも!?